

第3期滝上町まち・ひと・しごと創生総合戦略

滝上町まちづくり推進課まちづくり推進係

1 はじめに

滝上町は北海道の北東部、オホーツク管内の西部に位置し、森林資源と清流に恵まれた自然豊かな農村地域です。「人いきいき町わくわく童話村たきのうえ」をまちづくりの未来像として掲げ、独自のまちづくりに取り組んでまいりました。

本町の魅力を象徴する最大の観光資源が「芝ざくら滝上公園」です。10万平方メートルにも及ぶ広大な公園一面が鮮やかなピンク色の芝ざくらで埋め尽くされ、国内外から多くの観光客が訪れます。さらに町の中心部を流れる渚滑川^{しよごつがわ}の渓谷「錦仙峡」^{きんせんきょう}は美しい日本の歩きたくなる道500選に選出され、多彩な鳥類を観察することができ、また、渚滑川の「キャッチアンドリリース」の取組みが道内外の釣り愛好家から高い評価を得ております。近年は、芝ざくらや本町の歴史的シンボルでもあり特産品の和ハッカ等の香りを活かしたユニバーサルツーリズムの取組みにも力を入れています。

また、北海道が推進するヒグマゾーニング管理計画にいち早く取り組み、人工知能（AI）とドローンを連携させた即時監視によるヒグマ対策を強化に取り組んでいます。



芝ざくらの甘い香りが漂う芝ざくら滝上公園



まちの中心部を流れる渚滑川「錦仙峡」の美しい紅葉

2 人口の推移

本町の総人口は、国の高度経済成長期を前にした1961（昭和36）年9月に14,214人に達し、1954（昭和29）年に見舞われた台風15号の影響による国有林の風倒木処理のため、人口が急増しました。しかし、それ以降は一貫して減少の道を辿り続け、2025（令和7）年度に実施した国勢調査の速報値では、人口2,097人、世帯数1,101世帯となっております。

国立社会保障・人口問題研究所（社人研）が2023（令和5）年に算出した「日本の地域別将来推計人口」では社会動向がこのままで推移した場合、2030（令和12）年には1,890人と2,000人の大台を割り込み、2050（令和32）年には1,140人と2020（令和2）年時点の半分にまで落ち込み、2060（令和42）年には870人まで減少するとされています。この減少スピード及び減少割合は周辺の近隣市町村と比較しても非常に早く、その背景には本町の高い高齢化率と自然減少率の高さ、また進学や就職による若年層の転出、女性の転出超過傾向等が要因と分析されます。

このような状況から出生数を増加させる自然減抑制対策と転出抑制・転入増加を狙う社会減対策を車の両輪として統合的かつ体系的に推進していくことが不可欠であるという結論に至りました。

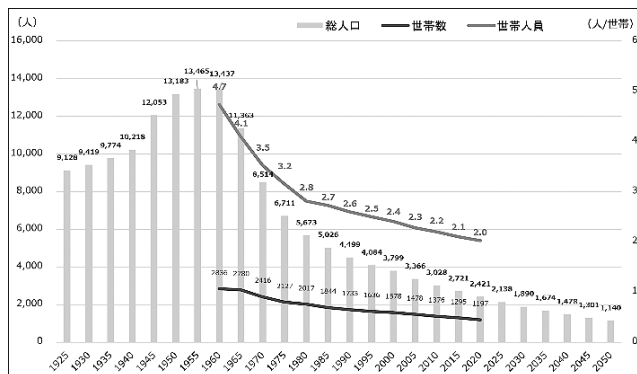


図1 滝上町の人口推移と将来推計（人口ビジョン）

3 滝上町まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要

「第1期総合戦略」ではくらし、雇用、交流、結婚・子育ての4つの基本目標を柱にバイオマスタウン構想の推進、基幹産業の担い手の育成・強化及び確保、まちの魅力を活かした移住・定住政策への展開、充実した子育て支援環境の提供等の施策を進め、人口減少や少子高齢化に対応してまいりました。しかし、第1期総合戦略の数値目標・重要業績評価指標の進捗状況を鑑みると70%の進捗率に達した項目は全体の6割程度にとどまり、目標人口達成のためには粘り強い人口減少対策に取り組む姿勢が求められました。

「第2期総合戦略」では、第1期の検証結果を踏まえ、これまでの枠組みを継承しつつ、それぞれの基本目標のもとで新たな課題や社会情勢の変化に対応できるよう、見直しを行いました。

しかし、第1期総合戦略による取り組みが始まった2016（平成28）年からの実際の人口推移と人口推計を比較したところ、社人研の人口推計ライン通りの傾き（減少率）で減少を続けており、依然として合計特殊出生率の低下傾向や社会減に歯止めをかけることができていないといった結果になりました。

4 第3期滝上町まち・ひと・しごと創生総合戦略

第3期総合戦略では、人口減少に歯止めをかけ、移住・定住地として選ばれる魅力的なまちづくりを進めていくために、本町の個性や強みにこだわりながら総合的な観点から施策を推進することを主眼とし、『地域の魅力や強みを活かし、人口減少対策と活力ある地域づくりを推進する』という戦略目標を設定しました。

（1）基本目標と具体的な施策

【基本目標1】「くらし」

～誰もが“くらし”続けたいと思えるまちづくり～

自然環境に恵まれ、都会にはない魅力的な農村生活を送ることができる本町の強みを活かすためには、町の景観が整備され、生活インフラの整備・充実が必要不可欠です。また、地域の安全・安心な生活を支えるため、医療・保健・福祉・救急といった人命や健康にかかわるサービスの他、公共交通、買物環境といった住民の日常生活に直結する利便性の確保が重要です。

<具体的な施策>

- ①空き家対策によるまち並み整備
- ②魅力的な農村生活を支える生活基盤整備
- ③住民が安心して暮らせるための医療・保健・福祉と地域公共交通対策の推進
- ④住民が安全に生活できる基盤整備と体制づくり
- ⑤住民の生活に直結する商業等の活性化による住民生活の利便性向上

【基本目標2】「担い手」

～地域の“担い手”確保と地域産業の振興から

稼ぐ地域への展開～

基盤産業である農業と林業の担い手確保はもとより、建設業、製造業、各種サービス業等様々な地域産業において課題となっている担い手確保対策を推進します。また、和ハッカや七面鳥等の他地域にない特産品が地域の知名度向上や産業振興に寄与していることから、地域の特徴や強みを捉え、強い産業づくりと地

域の主要産業の振興を図り稼ぐ地域づくりを進めます。

<具体的施策>

- ①就業支援や地域の魅力発信による農業・林業等の地域産業の担い手確保
- ②町内における起業や新規事業への支援による多様な担い手の確保と育成
- ③人材定着のための多様な支援による雇用対策の推進
- ④地域資源を活用した農業・林業の振興と農産品・木材製品の生産流通強化
- ⑤和ハッカや七面鳥などの特産品の生産流通強化
- ⑥木質バイオマス等の再生可能エネルギーや地域資源を活用した新産業の創出

【基本目標3】「交流」

～滝上町との“交流”から移住・定住への展開～

芝ざくらや渓谷「錦仙峡」、釣り等の観光資源を活かしたプロモーションや観光客の誘客を通じた交流人口の拡大、関係人口への展開を図り、移住定住へと結びつけます。

町外からの移住者を受け入れるための若年単身者や子育て世代等のニーズに即した住環境づくりの支援を推進します。

<具体的施策>

- ①芝ざくら・渓谷・釣り等の地域資源を活かした観光施策による交流人口の拡大
- ②移住支援の強化と移住関連情報の発信強化
- ③町外の企業や大学等との連携による交流促進
- ④若年単身者や子育て世代のニーズに対応した魅力的な住まいの整備
- ⑤空き家の活用とも連動した持ち家の取得支援

【基本目標4】「子育て」

～若年世代の定住から結婚・出産・“子育て”への展開～

若年層の出会いや交流の機会創出のみならず、結婚生活支援、雇用対策、住環境整備等地域における出会いから結婚までの総合的な支援環境づくりを推進しま

す。また、結婚から出産・子育てへの希望を持ち、安心して希望をかなえられる子育て支援を行い、「滝上で子育てをしたい」「滝上に住みたい」という意識の醸成を目指します。

<具体的施策>

- ①地域資源を活かした住民同士の交流拡大による若年世代の交流の機会づくり
- ②結婚から定住への切れ目のない支援
- ③妊娠から出産・子育てまでの相談支援や保育サービス等の支援環境の充実
- ④子育てに関する経済的支援の充実
- ⑤少人数ならではのきめ細やかで地域の特徴を活かした教育環境づくりと進学支援の推進

(2) 取組事例

①令和8年度からスタート！いきもの係の取組み

(住民が安心安全に生活できる基盤整備と体制づくり)

2020（令和2）年から4年連続で起こったヒグマによる人身被害やエゾシカなどを含む1億円にのぼる農業被害を食い止め、住民が安心して生活できる環境を整えるため、野生動物による被害防止と人と自然の共生を目指し、農林建設課内に専門部署「いきもの係」を新設しました。野生動物の専門的知見を持つガバメントハンターを配置し、人工知能（AI）とドローンを連携させ即時管理システム構築を目指し、駆除だけによらず、生態データの収集や予防的対策に取り組んでいます。



芝ざくら公園開園前に巡回パトロールを行う「いきもの係」

②たきのうえ市場オープン！

（住民の生活に直結する商業等の活性化による住民生活の利便性向上）

中心市街地における買物弱者対策として生鮮三品を提供する公設民営の「まちなか活性化貸店舗」から令和7年9月をもって事業者が撤退したことにより、後継事業者を募集し、2026（令和8）年5月28日に「たきのうえ市場」がオープンしました。商品の仕入れは「コープさっぽろ」が協力し、町独自の支援策（商業後継者・担い手チャレンジ応援補助金）や地域金融機関と連携した支援策（中小企業融資制度要綱）により、地域の安定した買物環境を整えました。



たきのうえ市場の開店に生鮮食品を買い求める住民

③令和7年4月こども家庭センター開設 （妊娠から出産・子育てまでの相談支援や保育サービス等の支援環境の充実）

これまで、母子保健分野（妊婦健診・母子手帳発行・乳幼児健診等）を担当していた子育て世代包括支援センターと児童福祉分野（児童手当やこども園入園関係等）を担当していた子育て支援係が一体となり、2025（令和7）年4月からこども家庭センターを開設しました。妊娠期から出産、子育て期において切れ目なく応援する体制を整えました。

また、「子育て」「まなび」「おでかけ」「イベント」「相談窓口」のテーマごとに本町で受けられる制度やサービスをわかりやすくまとめた『子育てガイドブック』を作成し、デジタル版と冊子を配付しています。



滝上町公式ホームページでデジタル版を閲覧できます

5 おわりに

本町が直面する老年人口減少の「第3段階（超高齢化）」という現実は、一刻の猶予も許されない極めて深刻な地域課題です。過去の総合戦略が人口推計の減少ラインの傾きを崩せなかったという厳しい客観的事実を全町あげて真摯に直視し、これまでの施策の在り方を粘り強く、かつ戦略的に刷新していかなければなりません。

しかしながら、本町には先人たちが大切に培ってきた「芝ざくら」「錦仙峡」等の観光資源、日本一の「和ハッカ」や希少な「七面鳥」といった独自の地場産品、「農業・林業・観光」という強固な経済基盤があります。地域が一丸となり、山積する課題をひとつずつ乗り越え「人いきいき町わくわく童話村たきのうえ」の持続可能で輝かしい未来を全力で創造していきます。